

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
2022年1月30日(日)
黒田 禎一郎

主 題：「しみも傷もない聖徒へ」
—主の忍耐は救い—

テキスト：2ペテロの手紙3章14、15節

はじめに

- ・第2ペテロの手紙で、ペテロが繰り返し強調してきたことはキリストにある「敬虔な生き方」でした。前回も学びましたように、ペテロは1章5～8節において「7つの恵みの性格」を挙げました。
 - 1:5 だからこそ、あなたがたはあらゆる熱意を傾けて、信仰には徳を、徳には知識を、
 - 1:6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、
 - 1:7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。
 - 1:8 これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、私たちの主イエス・キリストを知る点で、あなたがたが役に立たない者とか実を結ばない者になることはありません。それは神からの恵みとしての「贈り物」です。
- ・それでは、なぜ神は取るに足りない私たちに「七つの恵みの性格」を与えてくださるのでしょうか？ ⇒そこに神の御心が秘められています。今日は、その点を共に学んでいきたいと思えます。

大切なポイント

1. 霊的成長を求めて歩む人

1) しみも傷もない者

- ・ペテロは神を信じ神の国を待ち望む者に、一つの切実な願いがありました。それは次の聖句です。
 - 3:14 ですから、愛する者たち。これらのことを待ち望んでいるのなら、しみも傷もない者として平安のうちに神に見出していただけのように努力しなさい。
- ペテロのこの聖句は、平安をもって神の前に立つことができるように、という願いであり、また求めでもあります。
- ・旧約聖書時代、神は聖なるきよいお方ですから、神への献げ物は、しみや傷があつてはなりません。私たちが同じように、何が神に喜ばれるかを知ら

なければなりません。ローマ人への手紙 1 2 章は次のように述べています。

12:1 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

12:2 この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

私たちは自分自身を吟味し、生活を整え、神の前に出られるようになる必要があります。

- ・ところで 3 章 1 4 節のおわりに、「努力しなさい」とありますが、これは人間的な努力を積みなさいという意味ではありません。原語では「最善を尽くす」という意味です。ここではっきりと覚えなければならないことは、救いにあずかることと、救われた者に期待されていることを決して混同していけないことです。

- ① 前者は、救われるためにはイエス・キリストの十字架の贖いのゆえに、ただ信じるだけで救われる（義とされる）という信仰です。それは恵みでありませす。 [ヨハネの福音書 1 章](#)

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

1:13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってもなく、ただ、神によって生まれたのである。

- ② 後者は、神の前で無条件で義と認められる恵みにあずかった者が、神の義について学び、それによって成長し「しみも傷もない」ものとなり、主の前に立つことができるよう、最善を尽くして備えをしていくことです。

- ・神の義が支配する「神の国」に迎え入れられるための備えは、いつから始まるのでしょうか。それは「今」からです。教えられたその時からです。

2) 内なる人の成長

- ・私たちは何かの間違っていても、その状態に慣れ親しんでしまうと、それでいいのだと感じてしまうことがありますね。また居心地が良い環境に置かれると、あるいは幻想的な中に安易にとどまってしまうことがあります。それは非常に危険なことでもあります。世の中では、組織が守りの体制にはいると、そのような例が多々あることを知っています。
- ・キリスト者の生活も守りの姿勢に入ると（それは楽ですが）、内なる人の成長

は止まります。教会生活も守りの姿勢（ただ礼拝に出る、ただ聖書をよむ、ただ祈る等）に入ると、内なる人は成長しなくなります。ディボーションにおいて主の前に立ち止まり、内側を深く、真剣に見つめることは大切です。

- 霊的に成長する人は、見えない部分をしっかりと固めています。冰山は表に出ている部分（見える部分）よりも、見えない部分（隠れた部分）が何倍も大きいことをご存知でしょう。私たちも主である神との親しい交わりを通して、又みことばを通して、見えない部分をしっかりと固め、成長していきたいものです。

- ヨハネ福音書 15 章

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

枝はもと木であるイエス・キリストに結ばれることによって、確実に実を結ばせます。

- 教会の成長も、教会の枝々を構成する私たち一人一人の成熟にかかっています。イエスのぶどうの木のたとえのように、枝を伸ばし、多くの実を結ぶ存在として「成長する」ことが期待されています。

- 私たちは信仰が与えられてから今を迎えて、どれほど成長してきたでしょうか。成長するとか、成熟を目指すとかを、あまり意識せずに、大切な課題とすることもなく歩んできたのではないのでしょうか。毎日の生活に追われ、また世間の興味深いことに心を奪われて、この求めに対して心を向けることがほとんどなかったのではないのでしょうか。

- 聖書は箴言 4 章 23 節で次のように語っています。

4:23 何を見張るよりも、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれから湧く。イエスは成長について「からし種」のたとえを語られました。植物の種の中で、最も小さいものですが、成長すると鳥が巣を作るほどの木にあります。小さな種（信仰）は、成長し大木となっていきます。それぞれの枝々には、成長し実を結ぶことが期待されていました。農夫はそのために刈り込みをします。刈り込みとは不要な枝を取り去ることです。

- 私たちもみことばによって、大切なものと余計なものとの区別されます。私たちも大切な枝として残されるならば、将来実を結ぶことになります。私たちは表面下に隠れている部分（心）と真剣に向き合いながら、霊的にも整えられて成長したいものです。それには、日々語りかけられるみことばによって刈り込まれ、新しく造り変えられていく歩みを続けることが大切です。

2. 主の忍耐は救いです

3:15 また、私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい。

・聖書は「忍耐」について、多く語っていますが、いくつかを開いてみましょう。

① ローマ人への手紙 5 章

5:3 それだけではなく、苦難さえも喜んでいます。それは、苦難が忍耐を生み出し、

5:4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。

② ヘブル人への手紙 10 章

10:36 あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。

③ ヤコブの手紙 1 章 3, 4

1:3 あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。

1:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。

1) 「忍耐」は積極的生き方である

・まず大切なことは、「忍耐」は決して「じっと耐え忍ぶ」だけの消極的な生き方を意味してはいないことです。聖書の「忍耐」は、何かを生み出してゆく積極的な生き方です。

① パウロはローマ人への手紙 5 章 4 節で「忍耐」が「品性を生み」その品性が「希望」を生み出すという「展開」を見つめています。

5:4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。

② ヘブル人への手紙 6 章 1 2 節では、私たちが約束のものを手にし、神の豊かな祝福にあずかるためには、どうしても「忍耐」がなくてはならないと記しています。

6:12 その結果、怠け者とならずに、信仰と忍耐によって約束のものを受け継ぐ人たちに倣う者となることです。

③ ヤコブの手紙 1 章 4 節 a では、

1:4 「忍耐を完全に働かせなさい」、とあります。

・中途は半端な「忍耐」ではなく。完全な「忍耐」を必要としています。中途半端な「信頼」、中途半端な「忍耐」に対し、ヤコブこう述べています。

ヤコブの手紙

1:8 そういう人は二心を抱く者で、歩む道すべてにおいて心が定まっていなからです。

1:12 試練に耐える人は幸いです。耐え抜いた人は、神を愛する者たちに約束された、いのちの冠を受けるからです。

- ・「忍耐」は神がご自身のみわざを行われる場所であり、神が栄光を現される時であります。ペテロは迫害と苦難の中にあつた聖徒たちにエールを送ってきました。信仰者の労苦は必ず報われること。神ご自身の正しさに基づいて審判がくだされる日があることを信じて、希望を失わずに、今を誠実に生きよう、と語りかけました。
- ・しかし、そういう福音の声に聞き従わず、なおも自堕落な生活をしていた人々がいました。彼らは福音のすべてを疑っていたわけではありません。十字架の福音も、終わりの日の約束も信じていたでしょう。しかし、差し迫った事柄として、切実な問題として受け止めてはませんでした。そういう神理解であつたのです。今の時代も残念ながら、そのような人たちはいます。

- ・しかしペテロは、神のさばきはこれまでもあつたと述べ、神は人類のために「忍耐」を持って働いてこられたと述べています。そして、終わりの日のさばきがまだ訪れないという背後には、神の「忍耐」が働いていると述べました。

3:9 主は、ある人たちが遅れているとと思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

2) 主の忍耐を忘れてはいけない

① 聖書は「忍耐」について書いています。旧約聖書時代、預言者ヨナがいました。ヨナはアッシリアのニネベに遣わされたイスラエルの預言者でした。しかし、ヨナはそのことが気に入りませんでした。なぜならアッシリアこそイスラエルの敵であり、神のさばきが下る国民であると思っていたからでした。

- ・しかし神は預言者ヨナの偏狭な心をお取り扱いになり、一本のトウゴマを通し神の深い御心を教えられました。ヨナ書4章

4:10 【主】は言われた。「あなたは、自分で労さず、育てもせず、一夜で生えて一夜で滅びたこの唐胡麻を惜しんでいる。

4:11 ましてわたしは、この大きな都ニネベを惜しまないでいられるだろうか。そこには、右も左も分からない十二万人以上の人間と、数多くの家畜がいるではないか。」

結局、神はニネベを滅ぼさず、彼らが悔い改めに進むことを望まれました。

②また新訳聖書においても、イエスも天父神の「忍耐」語られました。

ルカの福音書15章には、放蕩息子のたとえ話があります。

イエスは当時のパリサイ人や律法学者たちに語られました。あるところに父親に2人の息子がいました。弟息子は父親から財産の一部を受け取り、旅にでました。彼は放蕩三昧を繰り返し、所持金も使い果たしてしまいました。

- ・その時、彼は父のもとには、食べ物がたくさんあり、雇い人でさえもこのように不自由ではないことを思い浮かべました。彼は決心し父親の元に帰りました。父はまだ遠くにいた弟息子を見つけると、かけより彼を迎え入れました。父親は長い間、弟息子の帰りを「忍耐」をもって待っていました。
- ・それを見て父親は、不平をもらした兄息子に、次のように言いました。

ルカ福音書 15 章

15:31 父は彼に言った。『子よ、おまえはいつも私と一緒にいる。私のものは全部おまえのものだ。』

15:32 だが、おまえの弟は死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのは当然ではないか。』

ここに、罪人に対する深い「忍耐」を持っておられる神の姿を見ることができます。

- ・イエスはパリサイ人や律法学者たちに言われました。

ルカ福音書 15 章

15:7 あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人のためよりも、大きな喜びが天にあるのです。

③そして何よりもペテロ自身が、この神の御心を深く学んだ人でした。

彼はイエスが受難を受けられた直前、大祭司カヤパの家の庭で召使いの女性から、「この人も、イエスと一緒にいました」（ルカ 22:56）と言われたとき、3度にわたり否定しました。彼は言いました。ルカ福音書

22:59 それから一時間ほどたつと、また別の男が強く主張した。「確かにこの人も彼と一緒にだった。ガリラヤ人だから。」

22:60 しかしペテロは、「あなたの言っていることは分からない」と言った。するとすぐ、彼がまだ話しているうちに、鶏が鳴いた。

22:61 主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われた主の言葉を思い出した。

22:62 そして、外に出て行って、激しく泣いた。

- けれどもイエスは、そんなペテロをお見捨てにはなりませんでした。ペテロが述べた「私たちの主の忍耐は救いである。」(2ペテロ 3:15) という言葉は、彼が主イエスと過ごした数年の経験の裏づけがありました。
- 神は私たちが悔い改めに進むことを、気の遠くなるような「忍耐」をもって待ちつづけておられます。その神の「忍耐」に支えられ、私たちは神が備えられた救いにあずかる者とされているのです。ですから、私たちは神も忍耐を軽んじる歩みをしてはならないのです。

ま と め

主 題：「しみも傷もない聖徒へ」

—主の忍耐は救い—

- 今朝も主はみことばを通してお語りくださいました。私たちは神に愛され選ばれた民です。「七つの恵みの賜物」をいただいた者です。なんとという幸いな者ではありませんか。
 - 私たちに求められる生き方、それはどこにあるのでしょうか？
⇒主を恐れて生きること
- 今朝のメッセージのまとめとして、3章15節aを読みましょう。
3:15 また、私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい。

* God bless you!